

まらり

Vol.39 2024/3



キャリア教育授業（青葉台小）
消防士小林さんに救急救命措置を学ぶ



キャンドルづくりの
ワークショップも



男女共同参画学級
保健師の佐々木睦美さんによる親子で学ぶ性教育講座



キャリア教育授業（広見小）
旭化成研究員の皆さんによる実験



わが子を守る防災セミナー
講師のあんどうりすさん



富士発・女と男のフォーラム
「なんででなかよし」

未来を拓き 「自分色の花」 咲かせよう



チャレンジセミナー
高校生スタッフによる企画運営協力



キャリア教育授業（岩松小）
自衛官高橋さんの訓練を体験



キャリア教育授業（吉原東中）
マジシャンOILさんとマジック体験

富士市では、小中学校での「男女共同参画の視点からのキャリア教育授業」をはじめ、新しい時代の主役となる子どもたちや若者を対象に、それぞれの個性と多様性を尊重する心を育てる事業を展開しています。

も
く
じ

- 【高校生と考えるLGBTQ】性の多様性を認め合って、誰もが生きやすいまちに。… 2～3
- 【話題のことば】SRHR(性と生殖に関する健康と権利)をご存じですか？…………… 4
- 【トピックス】女性のデジタルスキル習得講座／女性に対する暴力をなくす運動
男女共同参画地区推進員ブロック事業…………… 5
- 富士市男女共同参画センター／富士市男女共同参画宣言都市…………… 6



性の多様性を認め合って、誰もが

富士市立高校(全校生徒・教員・保護者)を対象としたLGBTQに関する意識調査

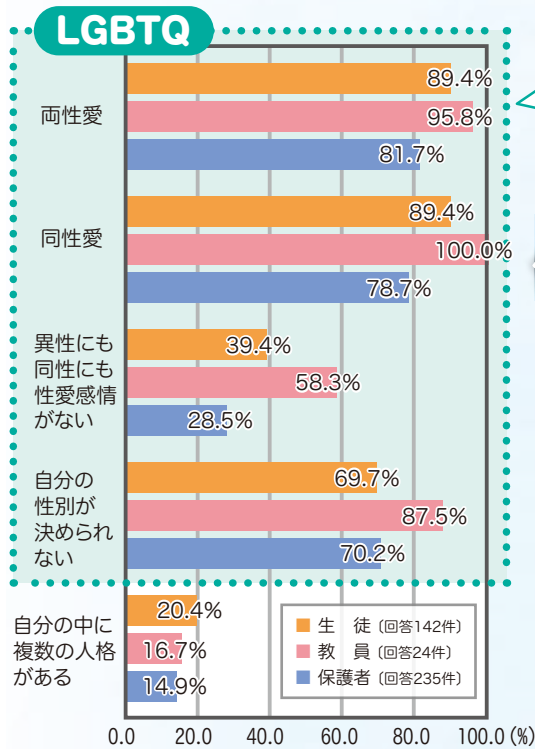


ジェンダーをテーマとした発表の最優秀班「Jeljel」

21HR 神尾姫奈さん、高橋幸海さん、望月亜美さん、村上咲喜さん(班長) ※写真左から

職場の雰囲気等によって答えやすさに差があるためばらつきがあるものの、LGBTQの人の割合は1.6~8.9%という調査結果もあり、身近な存在です。それにもかかわらず、打ち明けにくい環境であったり、「受け入れてあげる」という考えが存在していたりと、LGBTQの人にとって暮らしにくい社会ではないかと感じ、まずは現状を知り、これからの課題や目標を明確にするためにアンケート調査を行いました。

問1 LGBTQに当てはまると思うものをすべて選んでください。



上から4つめの項目までがLGBTQに当てはまりますが、「異性にも同性にも性愛感情がない」ことは、他の項目と比べるとLGBTQという認識が低いことがわかりました。また、4つの正解選択肢では、すべて教員の認知度が最も高く、生徒、保護者と続く傾向が見られます。

POINT

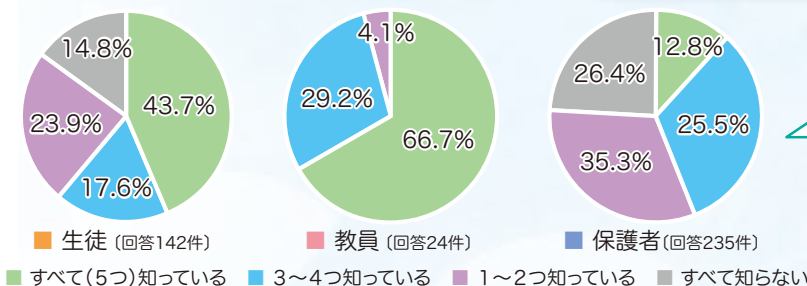
エルジービーティーキュー LGBTQとは

以下の頭文字を並べた言葉で、セクシュアルマイノリティの総称として使われることがありますが、この5つに限られるものではなく多様な性のあり方の一部です。

頭文字	日本語	説明	属性
L	Lesbian (レズビアン)	女性を好きになる女性。女性同性愛者。	性的指向
G	Gay (ゲイ)	男性を好きになる男性。男性同性愛者。	
B	Bisexual (バイセクシュアル)	異性を好きになることもあれば、同性を好きになることもある人。両性愛者。	性自認
T	Transgender (トランスジェンダー)	心と身体の性が一致せず、生まれたときに割り当てられた性別とは異なる性別を生きる、生きることを望む人。	
Q	Queer(クィア)/ Questioning (クエスチョニング)	クィアは性的少数者の総称の一つ、クエスチョニングは性的指向や性自認が定まっていない、敢えて決めないなどの人。	

「性はグラデーション」と言われており、「生物学的な性(身体の性)」「性自認(心の性)」「性的指向(好きになる性)」「性表現(表現する性)」といった様々な要素が絡み合っただちづられています。

問2 LGBTQひとつひとつの文字の意味を知っていますか。



調査対象者によって認知度に差があり、生徒と教員では、「すべて(5つ)知っている」が最も多いのに対して、保護者は「1~2つ知っている」が最も多く、保護者の認知度が低いことがわかりました。

問3 もし自分の娘、息子がLGBTQだったときにどういった対応をしますか。(教員は生徒を想定した回答を含む)

保護者

- 受け入れる (66件)
「個性として受け入れる」「本人の意見を尊重する」等
- 話をする (28件)
「とにかく話し合う」「よく話し合い気持ちを伝えよう」等
- わからない (11件)
「戸惑う」「困惑し、すぐに対処できない」等

教員

- 受け入れる (5件)
「思いを尊重して対応する」「個性を尊重する」等
- 話をする (7件)
「どのようにしたいか聞く」「してほしい配慮を聞く」等
- サポートする (12件)
「生きやすいように配慮する」「快適に生活できるように支援する」等

生きやすいまちに。

富士市立高校では毎年、「市役所プラン」と題し、富士市の課題解決に向けた研究発表を行っています。

今年度、ジェンダーをテーマとした6班から、最優秀班に選ばれた4人とともに、多様性に満ちた性の在り方を尊重し、誰もが生きやすい富士市にするために、今私たちに何ができるかを考えました。

ジェルジェル 最優秀班「Jeljel」の皆さんに、今の想いを聞きました！

研究発表を通して、感じたことや気づいたこと、自分の考え方が変わったことがあったら教えてください。

神尾:調べる前はLGBTQの文字の意味も1~2個しか知らなかったけれど、「どういう人がLGBTQにあたるのか」とか、自分の身の回りにもいることを知ることができました。これからは、そういった意識をもって生活していきたいと思います。

望月:これまでは言葉しか知らなかったけれど、LGBTQの種類やそれぞれの悩み、偏見を知ることができました。偏見をなくすために一番大切なのはまずは「知る」ことだと思います。自分がこの研究発表を通して知ることができたように、周りにもその知識を広めていくことができればいいです。

LGBTQの方々含め、誰もが通いやすい高校にするために、市立高校をどんな高校にしていきたいですか。

高橋:LGBTQの子に極端に優しくするとか特別扱いするのではなく、その子も普通に過ごして、周りも普通に接していただけるのがお互いに気を遣わなくていいかな。そうすれば、みんなが過ごしやすい学校になると思います。



高校生左から:高橋さん、神尾さん、望月さん、村上さん

神尾:全校生徒が何百人もいたら、LGBTQも含め、いろんな人がいて当たり前です。制服や様々なことに関して、みんなが「いろんな人がいて当たり前」という考えを持つことができれば、LGBTQも含め、みんなが生活しやすくなると思います。

望月:制服を性別に関係なく着られるようにジェンダレス制服にすることも大事だけれど、それを着ている人を特別扱いしたり、変な目で見たりすることがないように雰囲気づくりをする、みんなの意識を変えていくことが、まずは一番大切だと思います。

村上:LGBTQを常識にするのが一番の解決策かな。薬学講座や交通安全講座など、毎年行っている学校の講座と同じくらい、学校で話題に出すのが当たり前になったらいいなと思います。

富士市が今よりもっと誰もが暮らしやすいまちになるよう、期待することを教えてください。

高橋:自分の周りにはLGBTQについて詳しく知らない人が多かったけれど、親戚の中でもこういうプレゼンをしているという話をしていくなかで、徐々に広まっています。そういうふうな話題にすることで、少しのきっかけで、みんなにも知ってもらえると、徐々に意識が変わっていいまちになるのかなと思います。

村上:富士市に限った話ではないですが、SNSでは同性カップルの動画も多く上がっていて、もしかしたらフィルターがかけられているのかもしれないけれど、コメントはポジティブな意見がすごく多いです。今の若い人たちにとっては、そこまでアンチをするほどのことではないというのが常識になりつつあると思っています。今の若い人たちが、今の考えを持ったまま大人になったら、社会は変わるのかなと思います。

富士市で行っている取組の一部をご紹介します！

男女共同参画人権講演会

セクシュアルマイノリティに対する理解を深めるため、毎年、人権講演会を開催しています。今年度は、12月11日(月)に富士市消防防災庁舎にて、日本LGBT協会代表理事の清水展人(ひろひと)さんを講師にお迎えし、「男らしく、女らしくよりも『自分らしく生きる』～多様な性とLGBTQの人権～」と題して、ご講演いただきました。

女性として生まれた清水さんは、幼少期から自身の性別に違和感を覚え、女性らしい服装を強要されたり同級生に揶揄されたりしたことや、正直に将来の夢を発表することさえできず自己否定に苦しんだ過去を語りました。先入観で相手の性を決めつけないこと、そしてまずは「知る」ことの重要性を指摘。現在は結婚し、二児の父親である自らの経験を糧に、違いを認め合い、誰もが自分らしい生き方で幸せをつかむことのできる社会の実現を訴えました。

パートナーシップ宣誓制度・ファミリーシップ制度

令和3年度から同性カップルや事実婚の人などを対象に、お互いを人生のパートナーとして認め合い、相互に責任をもって協力し合って共同生活を送ることを約束した関係であることを市に宣誓し、市は宣誓を公的に証明する「パートナーシップ宣誓制度」を、令和5年度からは新たにパートナーシップの宣誓をした二人が、子や親などを家族として届け出ることができる「ファミリーシップ制度」を導入しました。この制度は、宣誓したお二人のパートナーとしての思いを尊重し、富士市として寄り添い、応援するものです。



講師の清水展人さん

世代を超えて 性別を超えて

誰もが自分らしく生きる富士市の未来に向けて、今、私ができることを一歩ずつ。

エスアールエイチアール

SRHR

(性と生殖に関する健康と権利)

をご存じですか？

SRHR（性と生殖に関する健康と権利）とは

SRHRとは、英語のSexual and Reproductive Health and Rightsの頭文字をとったもので、「セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」の呼称として広く使われており、「性と生殖に関する健康と権利」と訳されます。生涯を通して誰もが性や身体のことを自分で決め、健康に生きることを保障する権利です。女性は妊娠・出産の可能性があるなど、心身の状態がライフサイクルによって大きく変化するため、SRHRの視点が特に重要で、男女が共に関心と正しい知識を持つことが求められます。

SRHR(セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ)は4つの関連し合う概念を組み合わせて作られている言葉です。

●セクシュアル・ヘルス

自分の「性」に関する健康。心身ともに満たされて幸せを感じられ、その状態を社会的にも認められている状態が理想です。

●リプロダクティブ・ヘルス

妊娠や出産など自分の「生殖」に関わるすべてにおいて、本人の意思が尊重され、自分らしく生きられること。生殖についてどのような立場をとっていたとしても、身体的、精神的、社会的にすべてが満たされた状態(ウェルビーイング)であることを指します。

●セクシュアル・ライツ

自分の愛する人の性、性的プライバシー、性的快楽、自分の性のあり方(男か女かそのどちらでもないか)といった、自分の「性」のあり方を自分で決められる権利で、性意識や性的指向の多様性を保証するものでもあります。

●リプロダクティブ・ライツ

産むか産まないか、いつ・何人子どもを持つかなど、自分の「生殖」に関するすべてのことを、責任をもって自分で自由に決められる権利で、そのために必要な情報やサービスを得られることも指します。(参考：公益財団法人ジョイセフ)

SDGs(持続可能な開発目標)達成のために不可欠！ ～SRHRをめぐる国際的な動き～

SRHRの考え方のもとになったRHR(リプロダクティブ・ヘルス/ライツ)は、1994年の国際人口開発会議(エジプト・カイロ)において提唱された概念で、翌年の世界女性会議(中国・北京)で、「女性の人権」として再確認されました。現在、「セクシュアル・ヘルス/ライツ」を含むSRHRへと進展し、日本においても改めて注目を集めています。

SDGsの目標3「すべての人に健康と福祉を」や目標5「ジェンダー平等を実現しよう」のターゲットにはSRHRが深く関わっており、SDGsを達成するためには、人権としてのSRHRを推進することが欠かせません。

知ることから始めよう ～富士市の取組を紹介します！～

まずは一人ひとりがSRHRの考え方を知ることが、自分らしく生きるための力につながります。そして、家族やパートナーにその気づきを伝え、広げていくことが、社会を変えていくための第一歩になります。

富士市ではそんな「気づきの輪」を広げるための取組を展開しています。

SRHR講演会

令和5年12月13日(水) ロゼシアター小ホール 約300人聴講
主催：国際ソロプチミスト富士、公益財団法人ジョイセフ
共催：富士市



講師の高尾美穂医師

産婦人科医の高尾美穂医師を講師にお招きし、「人生をよりよく生きるために～今なにを選ぶか。健康で幸せに生きるメソッド」と題して講演会を開催しました。

高尾医師はまず、「自分らしく生きる」ためには、小さなことでも自分の好きなものを選び取っていく毎日が大切とお話されました。2019年の国際人口開発会議(ケニア・ナイロビ)への出席を機に、避妊方法の選択肢が少ないなどSRHRの浸透が国際的に遅れている日本の現状を認識されたご経験をもとに、女性が「産む身体」であることが不利になってしまう社会の仕組みを変えていく必要性を訴えました。女性の健康支援を通じて「自分が幸せでいることが、周りにいる人の幸せにもつながる。」との考え方を示し、「皆一緒に一歩前へ」と、会場いっぱい詰めた参加者に力強く優しいメッセージを送ってくれました。

ホワイトリボンラン

【ホワイトリボンラン2024】令和6年3月1日(金)～31日(日)
主催：公益財団法人ジョイセフ
富士拠点主催：NPO法人楽しいことやら座
共催：富士市

ホワイトリボンランは、女性の健康と権利の大切さを伝える国際的なシンボルマークである「ホワイトリボン」支援の輪を広げることを目的に、3月8日の国際女性デーと連動させ、ジョイセフが2016年から全国で展開しているチャリティアクションです。大会公式Tシャツを着て、世界の女性のために走り、エントリー費の収益全額は女性の命と健康を守る活動に寄付されます。今年度、富士市では富士田子の浦会場(3月2日(土))、富士大淵会場(3月3日(日))の2拠点で実施予定です。

詳細は、右のQRコードから富士市ウェブサイト(ホワイトリボンラン)をご覧ください。





今年度も富士市内で、市や市民による男女共同参画を進めるための取組が多数行われています。その活動の一部をご紹介します。

女性のデジタルスキル習得講座

日程：①令和5年11月14日(火)～、②11月28日(火)～<各4回>
会場：WORX富士、みらいてらす 主催：富士市

「わたしらしく働く」を叶えるための第一歩

本市の事業所は製造業の割合が高く、1事業所あたりの管理職数の平均は男性4.42人に対し、女性は0.69人（平成29年度事業者調査）と少ない状況にあり、30代女性の就労率は全国平均を下回っているなど、女性活躍の場が少ないと考えられます。また、人手不足が大きな問題となっている現在、企業にとっても女性活躍や働き方改革が重要なテーマとなっています。こうした状況を踏まえ、テレワークやワークシェア等、多様な働き方の可能性を広げ、自分らしい働き方を希望する女性を支援するため、富士市では、今年度より新たに「女性デジタルスキル習得講座」を実施しました。

内容はウェブ制作とデジタルスキルを活かしたマーケティング

講座の2コースで、2つの日程に分けてそれぞれ4回の連続講座として開催し、延べ80名が参加しました。子育て世代の参加も多く、受講者の皆さんが真剣なまなざしで取り組んでいる姿が印象的でした。それぞれが希望する働き方での就労の希望を叶え、ワーク・ライフ・バランスの実現につなげていくために、重要な一歩となる実践的な講座を開催することができました。



熱心に取り組む受講者の皆さん

女性に対する暴力をなくす運動

日程：令和5年11月12日(日)～25日(土)
※25日は女性に対する暴力撤廃国際日

「ひとりで悩まず、相談してください」のメッセージを込めて

内閣府等が主唱する「女性に対する暴力をなくす運動」期間に合わせて、富士市では、市役所2階ロビーでDV等の防止に関する啓発展示を行ったほか、富士川サービスエリアにある大観覧車「フジスカイビュー」を女性に対する暴力根絶のシンボルマークである「パープルリボン」にちなんで、紫にライトアップしました。大観覧車のパープルライトアップは平成29年度に開始し、今回で7回目となります。



大観覧車に浮かび上がるパープルリボン

また、富士市議会11月定例会本会議初日には、富士市議会議員及び市長、副市長、教育長、関係部長

が、パープルリボンを身に着けるなどパープルを着用し、出席されました。

夫・パートナーからの暴力、性犯罪、売買春、セクシュアル・ハラスメント、ストーカー行為等の暴力行為は、いかなる場合も決して許されるものではありません。パープルライトアップやパープルの着用には、女性に対するあらゆる暴力の根絶を市民に広く呼び掛けるとともに、被害者に対して『ひとりで悩まず、まずは相談してください』というメッセージが込められています。



市議会11月定例会本会議初日にパープル着用

男女共同参画地区推進員ブロック事業

あなたの暮らす地域でも、特色ある活動を展開中！

富士市では、生活に身近な地域から男女共同参画を推進するため、富士市男女共同参画条例に基づき、平成16年度から市内全26地区に男女共同参画地区推進員を設置しています。令和5年度は97人（令和6年1月現在）の推進員が各地区で、チラシやグッズ配布によるPR活動やアンケートの実施、講座開催など趣向を凝らした活動を展開しています。

また、より広く多くの方に男女共同参画について知っていただ

く機会とするため、市を6つのブロックに分けてさまざまなイベントを企画・運営しています。西部ブロックでは、12月23日(土)、24日(日)に富士川楽座で「みんなで作る、みんなの未来」と題し、市や市民団体が行う男女共同参画の取組を紹介するパネル展を行いました。大観覧車招待券の当たる抽せん会や市食育キャラクターむすびんの登場などもあり、親子連れや観光客など多くの人でにぎわいました。

その他のブロック事業紹介（すべて令和6年、MC：まちづくりセンター）

- 南 部：新春初笑い落語 笑福亭学光独演会&紙芝居上演 1月13日(土) 富士北MC
- 北西部：映画上映会「瀬戸内寂聴 99年生きて思うこと」 1月20日(土) 丘MC
- 東 部：講演「女性が活躍すると社会も輝く」（講師：山下いづみさん、佐藤菊乃さん）
&マジックショー 1月27日(土) 吉永MC
- 北 部：酔狂亭雀庵落語&ハンドバルコンサート 2月17日(土) 吉永北MC
- 中 部：講演「製造業の女性経営者となって挑んできたこと」（講師：和久田恵子さん）
&影絵コンサート 3月9日(土) 吉原MC



西部ブロック事業での展示の様子



学ぶ。つながる。相談する。

富士市男女共同参画センターは、性別や年齢に関わらず、誰でも気軽にご利用いただける富士市の男女共同参画の拠点施設です。

気軽に
お越しください

富士市 男女共同参画 センター

【富士市男女共同参画センター】

〒416-8558
富士市本市場432-1(フィランセ西館 3階)
TEL/FAX 0545-64-9017
開館時間/8:30~21:00
休館日/毎月第3日曜、祝休日、年末年始

フィランセ西館
3階です!



施設

情報コーナー

育児、夫婦関係、健康、LGBTQなど幅広い分野の図書やお子さまに人気の絵本、ビデオを貸し出しています。フィランセ開館時ならいつでも利用可能です。

雑誌毎月更新中!
(婦人公論・オレンジページ)



女性のための相談室

相談無料
秘密厳守

女性が抱える様々な問題・悩みについて、女性相談員が話を聴き、解決に向けて共に考え、必要に応じて関係機関を紹介します。

相談専用電話 ☎0545-64-8997

- 相談日: 月~金曜日(休祝日・年末年始除く)
- 相談時間: 9:00~17:00
- 相談方法: 電話・面接(要予約)・メール



メール相談は
こちらから

事業

富士発・ひとひとのフォーラム

男女共同参画センター利用団体で構成する「きらり交流会議」が、子育て支援、親子料理教室、アート、防災、SDGs など様々なテーマで、男女共同参画の視点を盛り込んだ講座や講演会等を年間通して開催しています。



「飛び出すカード作り!」
講師: 漆畑勇司さん(彫刻家)

ほっとスペース

手遊びや読み聞かせ、工作などを通して、お子様と一緒に心が「ホット」になって、「ほっと」とする楽しいひとときを過ごしませんか。



子育てのヒントも盛りだくさんです。

★開催内容は、広報ふじや富士市ウェブサイト・SNS、市民活躍・男女共同参画課Instagramで随時お知らせしています。

富士市は 男女共同参画宣言都市 です。

富士市は性別に関わりなく、誰もが個性と能力を発揮し、心豊かに生きる社会を目指し、平成21年9月、内閣府の指定を受け、「男女共同参画宣言都市」となりました。県内では、島田市に続いて2番目の男女共同参画宣言都市です。

富士市木島に、男女共同参画宣言都市の広告塔があります。



記事についてのお問い合わせ、ご意見・ご感想はこちらへ。

編集・発行

富士市市民部 市民活躍・男女共同参画課
男女共同参画室(富士市役所3階北側)

TEL 0545-55-2724 FAX 0545-55-2864
E-mail: si-danjo@div.city.fuji.shizuoka.jp
住所: 〒417-8601 富士市永田町1-100

きらり

「きらり」は年1回発行します。世帯回覧のほか、各地区まちづくりセンターや図書館、市民活躍・男女共同参画課でも配布しています。ぜひ皆様でご覧ください。



きらり最新号と
バックナンバー



市民活躍・男女共同
参画課 Instagram